

ユーザーガイド

AIR-Q®3
挿入 Air-Q®3, Air-Q®3G

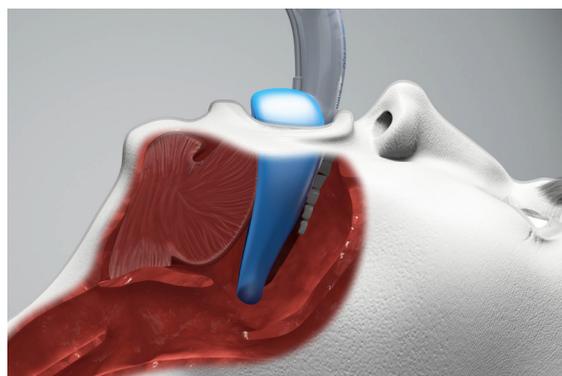
ステップ1

シリンジを挿入しカフを萎ませて膨張弁を開けます。マスクの畝部を含む外表面に潤滑剤を塗ります。



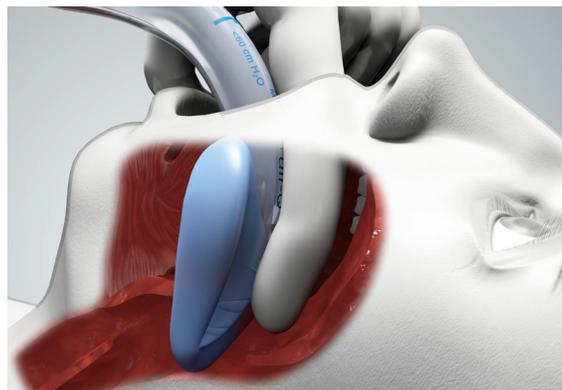
ステップ2

Air-Q®3 マスクの前部を舌根と軟口蓋の間にやや前角気味に配置します。



ステップ3

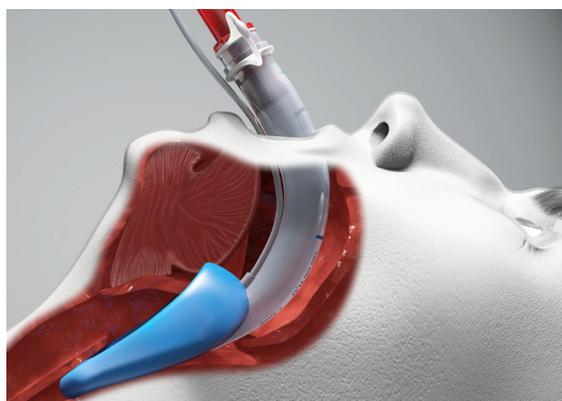
左手の人差し指を甲側がマスクから隠れるように添え、指を前に曲げてマスクを直ぐ近くにある咽頭に案内されるように支援します。



ステップ4

前方へ進めようとしても動かないと感じるまで前進しつづけます。前方への進めようとしてもそれ以上動かなくなったら正しい配置であると判定されます。推奨表にしたがってカフを膨らませます。

膨らませすぎないようにします。



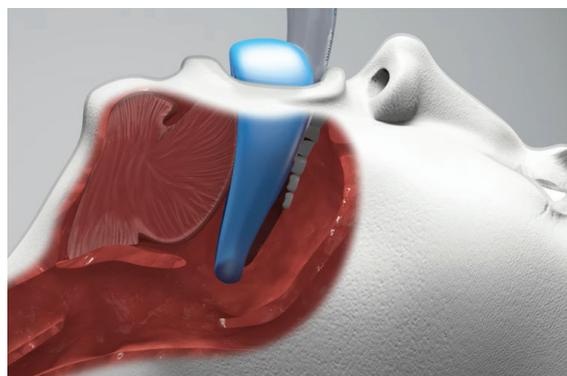
ステップ1

マスクの嵌部を含む外表面に潤滑剤を塗ります。



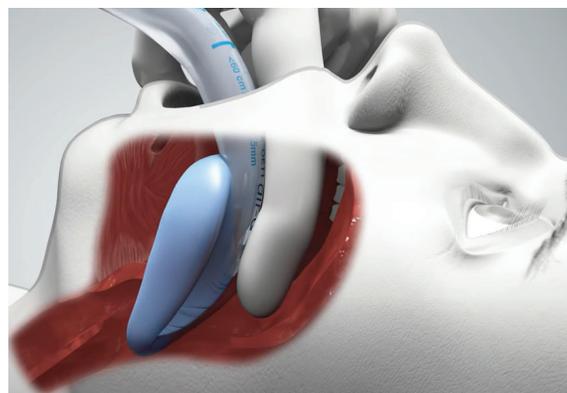
ステップ2

Air-Q®3 マスクの前部を舌根と軟口蓋の間にやや前角気味に配置します。



ステップ3

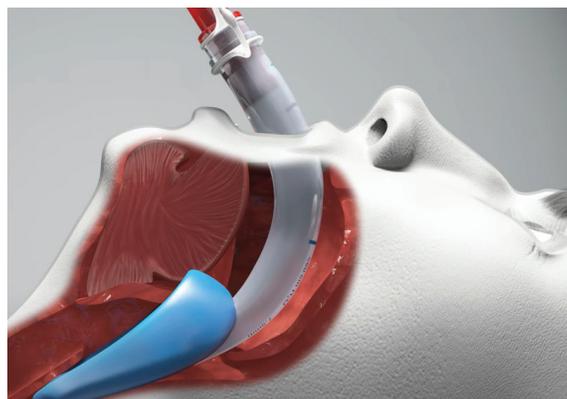
左手の人差し指を甲側がマスクから隠れるように添え、指を前に曲げてマスクを直ぐ近くにある咽頭に案内されるように支援します。



ステップ4

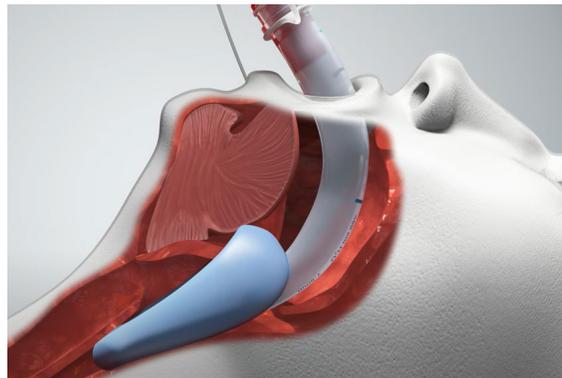
前方へ進めようとしても動かないと感じるまで前進しつづけます。前方への進めようとしてもそれ以上動けなくなったら正しい配置であると判定されます。推奨表にしたがってカフを膨らませます。

膨らませすぎないようにします。



ステップ1

局所麻酔の噴霧か筋肉弛緩によって喉頭部筋肉組織と声帯を弛緩させる必要があります。予備的に酸素を送り込みます。適切なサイズのOETTカフを萎ませて潤滑剤をしっかりと塗ります。



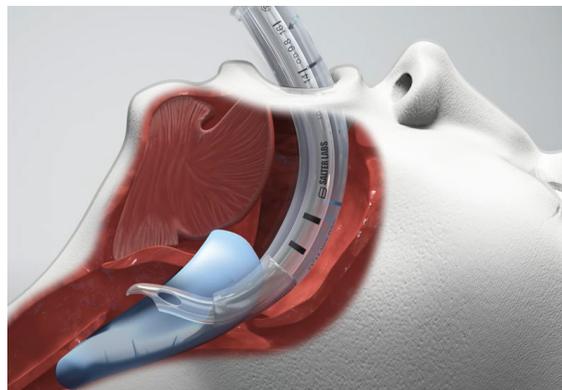
ステップ2

Air-Q®3を換気装置から外し、Air-Q3チューブを人差し指と親指で挟んですぼめてコネクタを外側に引張りながらコネクタを前後に揺り動かすことで、Air-Q3コネクタを取り外します。



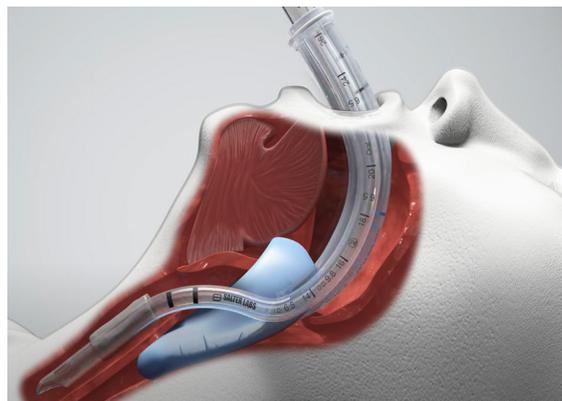
ステップ3

しぼんで潤滑剤を塗られたOETTをAir-Q3経由で深さ6~20cmまで、Air-Q3のサイズに応じて挿入します。これにより、OETTの遠位端がマスクキャピティ内のAir-Q3気道チューブの開口部またはその近辺にくるように配置されます。



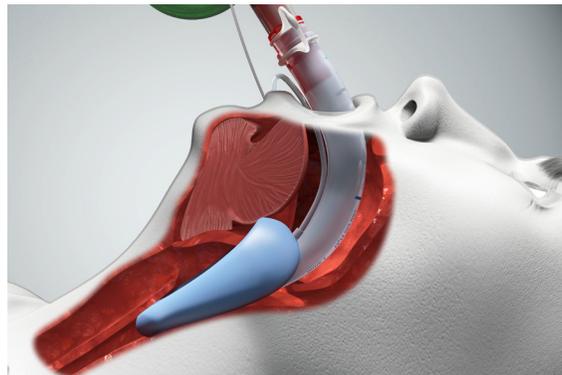
ステップ4

標準プロトコル技術を使用して、OETTを声帯を通過して気管内に前進させます。



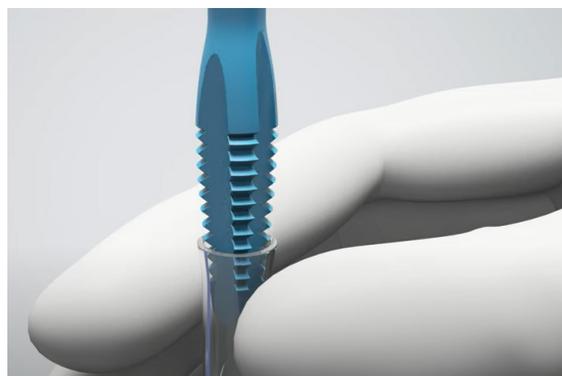
ステップ1

適切な探針を選択します。OETTコネクタをOETTから取り外します。OETTの近位端を人差し指と親指ですぼめます。



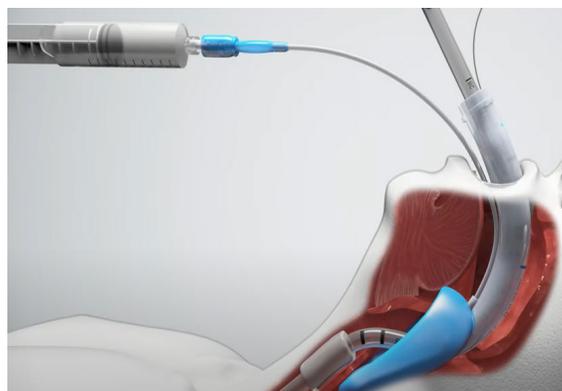
ステップ2

Air-Q®取り外し探針の先細り端をOETTの近位に挿入します。アダプタがOETT内に適合するまで強い内向きの圧力を使います。



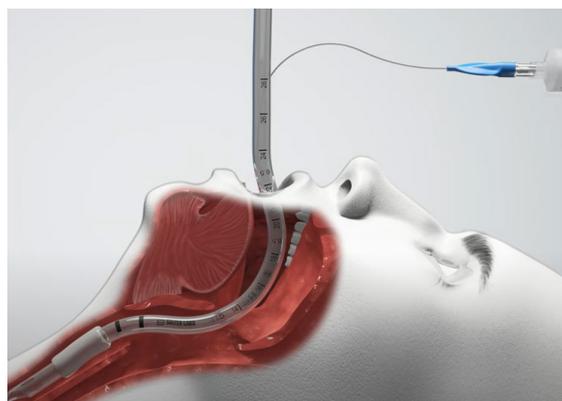
ステップ3

OETT上のパイロットバルーンをすぼめて潤滑剤を塗り、Air-Q®3を引き抜きます。探針上で内向きに働く安定化力を働かせ、ロッド上でAir-Q®3を外側にゆっくり引き抜きます。



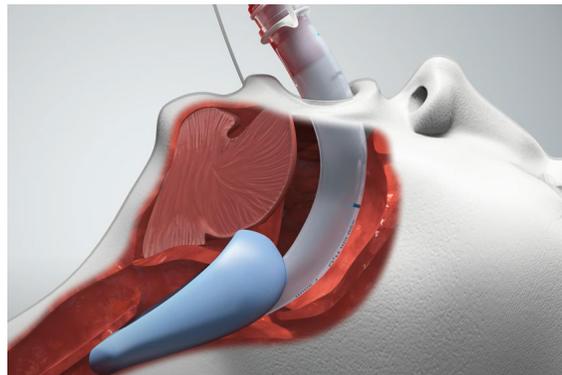
ステップ4

OETTを患者内の適切な深さに再配置します。OETT内のOETTコネクタを交換します。適切な呼吸デバイスに取り付けられている場合、必要に応じてOETTを膨らませます。



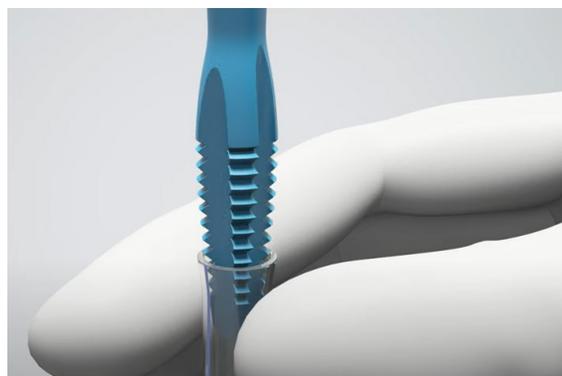
ステップ1

適切な探針を選択します。OETTコネクタをOETTから取り外します。OETTの近位端を人差し指と親指ですばめます。



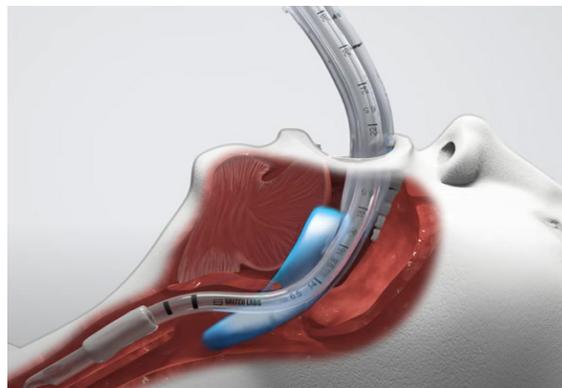
ステップ2

Air-Q®取り外し探針の先細り端をOETTの近位に挿入します。アダプタがOETT内に適合するまで強い内向きの圧力を使います。



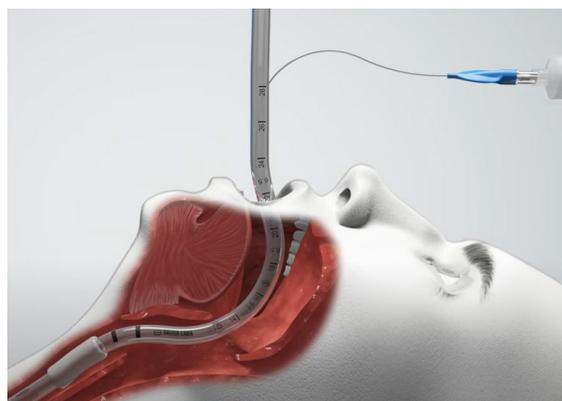
ステップ3

カフとパイロットバルーンを萎めます。
OETT上のパイロットバルーンに潤滑剤を塗り、Air-Q®3を引き抜きます。探針上で内向きに働く安定化力を働かせ、ロッド上でAir-Q®3を外側にゆっくり引き抜きます。



ステップ4

OETTを患者内の適切な深さに再配置します。OETT内のOETTコネクタを交換します。適切な呼吸デバイスに取り付けられている場合、必要に応じてOETTを膨らませます。



適切なシール圧力

Air-Q®3のシール圧力が換気に不適切な場合、体重基準で推奨されているものよりも大きなサイズを使用することを推奨します。また、シール圧力に到達した場合であっても、換気のピーク気道圧力は、気圧障害や不十分な換気を防止するため、40cm H₂Oを超えてはいけません。

換気中の/過剰な空気漏れ

換気中の過剰な空気漏れに気づいた場合、以下のうち1つまたは全てを使用します：

1. より大きなサイズのAir-Q3を使用する
2. Air-Q3とAir-Q3Gには、パイロットバルーンをチェックし、必ずマスクに十分な空気があることを確認する
3. 一回換気量を5 ml/kgに制限する
4. ゆっくりした穏やかな呼吸で手動で換気する

